

いちのとりさいてん
一の酉祭典

表門神社

祭典月日 : 令和2年2月2日(日)

※毎年2月第1日曜日

祭典の内容

- ◎『一の酉祭典の式』 10時
- ◎『太々神楽の奉納』 式終了後から 表門神社神楽保存会による神楽舞の奉納が夕方頃まで神楽殿にて行われます。(毎年時間は流動的)
- ◎『浦安^{うらやす}の舞^{まい}の奉納』 12時過ぎ頃から(時間は未定・舞姫の人数により時間は変動します)
S15年以来約80年もの間代々舞われている歴史ある舞です。
※表門神社の氏子(町屋・矢作)の小学6年生女子による舞。
『扇の舞』と『鈴の舞』それぞれが別々の舞であり 二舞で構成されている
- 神社拝殿内に於いて『合格祈願・家内安全・商売繁盛・厄払い 他、』の御祈禱を承っています。
- 表門神社限定の【学業合格祈願御守り、交通安全・他種御守り・お札等】も用意されています
- ◎境内には約50の露店が出店。(毎年神社に届け出の上、警察で許可した者のみ出店)
- ◎参拝者駐車場 : ・JA山梨みらい市川三郷経済センター駐車場 ・役場三珠庁舎駐車場
- ◎交通 : JR身延線芦川駅から徒歩2分

一の酉祭典の歴史

表門神社は人皇7代孝霊天皇の御代2年目(前288年)・今からおよそ2300年余り前の鎮座と伝えられる。嘉保2年(1095)『^{ぎやうぶさぶろうよしきよ}刑部三郎義清』が上野村(現在の^{じやうの}上野)に配流され住居を定めた。そして御崎明神(表門神社)を鎮守と定め、その際義清宅に御崎明神を迎え神楽を奉納した。この故事に倣い毎年宮司宅に御輿を迎え祭儀を執り行った。《御台所祭り》11月酉の日。

一の酉祭典は、昔旧暦正月第1の酉の日及びその翌日の2日間催行された。『白河天皇』の永保元年酉年の史実より始まる祭典である。現在では2月の第1日曜日に執り行われ、約千年余りの歴史を誇る祭典で甲府盆地に春を告げるお祭りとして親しまれている。

大聖文珠 『学びの神・知恵文珠』として信仰されている。

山梨の民謡 ♪山梨の民謡・『市川文珠』の中で『市川文珠 知恵文珠 女にゃあ針 男にゃあ硯 墨 筆』と♪唄われ 昔は県内各地で盆踊り等で踊り親しまれていた。

太々神楽 社伝によると。太々神楽の始まりを鎮座以来とし、特に後世甲斐の守に任じ、平塩の丘に館居した『逸見冠者源の義清』が鎮守として崇敬し館中に御輿を迎え神楽を奏して御台所祭りを行って以来毎年必ずこれを行い社威を隆盛に赴かせたといい、甲州では最も古い神様であると称されている。

宮司 市川清房は『源 頼朝』に愛されしばしば鎌倉との間を往来しており、そのため太々神楽に鎌倉風の影響があるといい、更に永保年間中『白河天皇』の勅願所となった関係から往来。自ら京風の影響も受けていると説かれているが、この舞は岩戸開きを中心にした神話を仕組んだいわゆる『岩戸神楽』であり、かつて二十四座に及んだものが今はそれが集合されて十三座を数えるだけである。(神社社記抜粋)

市川文珠 表門神社宮司 市川行治